

令和3年度 第1回学校関係者評価委員会

日 時：令和3年10月29日（金）19：00～19：50

場 所：長崎医療技術専門学校 会議室

出席者：長尾 博，有福浩二，大坪 健，吉岡正恒，杉本直美

分部哲秋，韋 傳春，林勇一郎，荒木一博，岩永隆之，早野和之

欠席者：なし

座 長：韋

1. 出席者紹介

2. 校長挨拶

3. 前回会議後の報告

韋）オープンキャンパスは、対面で1回（7月）、オンライン4回実施した。急きょ中止したのが2回あった。対面での機会が極端に少なかったため、7・8月に個別予約を受けてのマンツーマンでの案内を2回ほど行い9名の参加があった。全体的に広報の機会が少なかった。

また高校での進路ガイダンスも、昨年に引き続き件数はかなり少なかった。

荒木）学校行事は、新型コロナの影響によりなかなか実施できない状況であった。本来4月に3学年での交流を図る行事も出来ておらず、学年間のつながりを持てるようにと6月に1・2年生だけで勉強などについて情報交換を行う交流会を定期試験前に実施することができた。

9月になり長崎市のアダプトプログラムによる風頭公園清掃活動も再開できた。その中で、多少ではあるがクラス内での交流もできたのではないかと感じている。

また例年秋には障害者スポーツや球技をクラス対抗で行う「イギセンピック」を実施しているが、感染対策を考慮し、4月実施予定であった学年間の交流を主体とした「医技専さるく博」を10月23日に実施した。街をさるく組と学内から指示を出す組の連携で様々な課題に取り組む形で、さるく組は街を探訪しながら、学内組は仮装をしてコンテストをするなど、各グループ内での交流は深められたようであった。

4. 開会

当委員会第6条の規定による出席数を満たしており、本委員会は適切に成立していることを確認する。

5. 委員長選出

委員長は長尾 博先生ですすめさせて頂く。

6. 審議事項

『令和3年度保護者アンケート結果について』（別紙資料）

岩永）9/1～10/10の期間で保護者アンケートを実施した。（資料に沿って説明）

回収率は49.4%（昨年度65.4%）で昨年より下がっている。リモート授業や分散登校などにより回収率が下がったのではないかと考える。

「質問1：学校のスケジュールや学校行事の様子がわかる。」では、「そう思う」「ややそう思う」が48.3%（昨年度41.5%）であり、少し向上している。

「質問2：学生はわかりやすい講義を受けていると感じる。」は、「そう思う」「ややそう思う」が

64.3%（昨年度 61.9%）で少し向上している。教務委員長の林が努力してくれて、リモート授業についても充実が図れたということも要因ではないかと考える。

「質問3：学校は学生の安全管理や健康管理に配慮していると思う。」では、「そう思う」「ややそう思う」が77.4%（昨年度 89.6%）で、昨年度より下がっている。新型コロナウイルス感染症に関してはかなり厳しく取り組んでいるが、その中身が複雑でもあり、それに関しての周知が不足したのではないかと反省している。

「質問4：担任や教員は学生からの相談に対応していると感じる」では、「そう思う」「ややそう思う」が85.2%（昨年度 81%）と少し向上している。

「質問5：学校での学習指導は家庭学習に活かされていると感じる」は、「そう思う」「ややそう思う」が72.1%（昨年度 70.5%）で少し向上している。自宅でパソコンやタブレットに向ってリモートで学習している姿をご覧になった保護者の方も多いのではと推測する。

「質問6：社会人や医療人としての人間性を育む教育が行われていると感じる」では、「そう思う」「ややそう思う」が75%（昨年度 82.8%）で、下がっている。どうにかイベントができ始めたところではあるが、新型コロナの影響でイベント等がかなり減ったことで、情意面での取り組みの課題が残っている状況である。状況を保護者の方に伝えきれていないこともあるかもしれない。

「質問7：保護者からも学校や担任に連絡がとりやすい環境であると感じる」は、「そう思う」「ややそう思う」が55.1%（昨年度 54.4%）でほぼ横ばいである。

「質問8；自由記載」学習面、学校生活面等について紹介した。昨年の意見と比べても、明らかにコロナの影響による意見が増えている。

岩永）昨年に比べて、コロナの影響によるご意見が多かった。学校としては感染対策を行いながら、出来るだけ制限をかけずに取り組めるよう配慮をしてきた。出来るだけ登校させたいとの思いの一方で、実習施設等の厳しい受け入れ基準などがあり、実習期間前の登校を制限せざるを得ない現状もあった。そのようなことについて保護者への発信が足りていなかったのではないかと考える。

吉岡）職場でもリモートでの研修を行っているが、リモート授業で授業の質が上がったことについてどのような工夫をされているのか参考にしたい。

林）iPad 導入して2年目となる。昨年は Zoom や meet を用いる際に、通信状況を配慮してカメラオフでやっていた。今年は、通信状態が悪い学生のみカメラオフを可としたが、原則カメラを常時オンにするようにした。カメラをオンにすることで、学生の集中力は非常に高くなった。

昨年はスライドショーを流すことで対応していたために、淡々と講義する感じであったが、今年はビデオとホワイトボードを用い板書を取り入れたり、模型や動画を用いたりした。学生がマイクをオンにする場面は少なかったが、チャットと Google フォームを使って出来るだけ生の声を受け取ることに対応できるようにもした。Google フォームはその場でデータ化出来たり、状況を把握し講義の補足もすぐにできたりできた。カメラをオンにすることで、1対1で講義を行っている感じは多かったと思う。

岩永）先日行われた外部講師による3年生の国試対策セミナーでも、あえて双方向性のリモートで行われた。学生は自宅から、教員は職場から参加した。画面に顔が映った状態で参加するので、学生の様子も見ることができ、有意義な取り組みと感じた。今後も、週末や冬休み期間における国試対策にも活用していける印象をもった。

吉岡) 授業が分かりやすい・わかりにくいということについて、先生方への授業の進め方や構成へのアプローチはあるのか。

岩永) 授業評価の内容や学生の反応などについて、常勤教員の科目については情報交換などが行いやすく、工夫についても話し合えている。外部講師についても、大学の先生方の中にはチャットや Google フォームなどを用いるなどの工夫がされており、学生の評価が上がったケースもある。学年教務からフィードバックするなども行っている。細かな所については専門性もあるので、それぞれの科目による違いがあるのが現状である。

韋) 配信環境がない講師については、来校いただき配信した。教員もサポートに入ったりした。

長尾) 昨年と今年の比較だが、回収率が同率ではないので、回収率の比率から算出した方が良い。、ただ明らかに今年が問題かなと思われるのは、「質問 2 : 学生はわかりやすい講義を受けていると感じる」という点であるが、回収率の比率から見るとほぼ一緒かなと思われる。明らかに優位さがあるのは「質問 6 : 社会人や医療人としての人間性を育む教育が行われていると感じる」で、どう見ても低下していると思われる。その要因は何ですか。具体的な交流がないからということなのか。

岩永) 具体的なコメントはなかった。面談等は出来るだけ行ってきたが、学生のイベントが圧倒的に減ったのは事実である。学内でも「密になるな」「食事は分かれて食べる」など徹底して指導している。

長尾) ひょっとしたら保護者の過剰期待かもしれない。科目以外に、躰という面も期待しているのかもしれない。

長尾) 大学だけかもしれないが、保護者は対面法を期待している傾向が高いという報告もある。学校としては今回の報告で効果が出た遠隔授業を進めていくのか、それとも世間の意見を考え対面法で検討するのが重要になる。ものすごく教育効果が出てるのであれば全部を遠隔授業にすることも良い。ただし心理学的には、登校しなくても勉強が出来ると学習されたら問題になる可能性もある。日本の学生は主体的に勉強することは弱いと言われているため、不登校が増える傾向にある。

岩永) 実技系は対面でないと取り組めない。そのため、いいところ取りのハイブリットで行えないかとも考えているところである。コロナの影響はまだまだ続く可能性もあり、そのような中でも十分な学習効果が出せる方法の準備を行っていききたい。また、登校してコミュニケーションを取ることは「人間性を育む」ことにもつながると考える。休学等の理由を考えると、目的意識を仲間と共有する機会が必要と感じている。そのためどのような状況下になっても、学びを止めず、質も維持する方向で取り組もうとしているところである。

韋) リモートでは社会性や人間性、将来像を明確にさせるのは難しいのかなと感じている。なので、リモートと対面を上手に使っていこうと思う。

大坪) リモート授業の場合、若者は集中力が続かないのではないかとと思われるが、集中力が続かない学生への対応などあるのか。

林) 授業中に寝る学生を比較すると、オンラインの時の方が起きている。広い講堂の授業では、下手すると科目によっては半分の学生が寝ている。しかしオンラインではカメラをオンにするだけで、どの科目においても 1~2 名だけであった。途中退席するケースもほとんどなかった。中にはギターを弾き始めるというケースもあった。寝る人は少なかったが、授業を聴いているかは定かではない。

岩永) 学生からみると、1 対 1 で授業を受けているイメージになるようで集中できるようである。

大坪) アンケートの意見に対して、全部に返しているのか。要は意見を出したものの勝ちになってしまっていないのか、学校の方針や対応を伝えているのか。

韋) レスポンスはなるべく返すようにしている。方法としては、すべての意見に対してではないがホームページに「ご意見と対策（改善点）」という形で載せている。

岩永) 実習の配置に対する件については、意図があり配置しているのだが、保護者の方にうまく伝わっていないかったり、保護者と学生間の話がうまくできていないケースもある。そのため誤解されている場合もあるので、担任が電話で説明するなどの方法もとっている。

杉本) スケジュールや学校の様子がわからないという意見があったが、スケジュールなどはホームページを見ればわかることである。学校行事での様子などは、今年からInstagramも開設されたことであり、アンケートが来ても、同居していなければ子供に聞けばいいことである。結果、保護者と学生の間のコミュニケーションを取っていないのだと感じる。クレームを言う保護者は少なからずいるのが現状で、私自身も実習配置に対し不満に感じることもあった。ただこれは、「何でそんなところに」と思うのか、「これまでと違った体験ができる」と思うのかの捉え方だと思う。やはり、意見をいう人はホームページなどをきちんと見てから言われるのであればいいのだが、そうでないのであれば保護者も勉強して欲しいと感じる。

韋) ホームページに挙げて欲しいという意見や、紙で配布して欲しいという意見など両方の意見がある。

杉本) 活水大学に通っている知り合いの学生ではあるが、栄養士の病院実習先を先生が一生懸命に探しているのを聞いて「別にいいとにね。わざわざそこまでしてまで探さんでも」と保護者が言われた。私は、実習はリモートにはない良さがあるのにもったいないなと思った。やはり保護者の考え方もいろいろあるんだなと感じたが、学校の先生方も学生のために頑張ってくれているので、わかってほしいと思う。

韋) 理解いただけるように発信を続けていきたいと思う。

7. 総評

長尾) 保護者のアンケートを取るというのは貴重な資料だし、学校としても教員としても前進になると思う。今日は非常に貴重なデータや意見をお聞きしたので、活かして行ってほしい。

8. 謝辞

(分部) 専門学校でこんなにアンケートで意見が出ることは珍しいと思う。それぞれの意見を大切にしなければと感じている。

9. 閉会

韋) これを持ちまして令和3年度 第1回学校関係者評価委員会を閉会する。

次回の学校関係者評価委員会は、令和4年3月25日（金）を予定する。